

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立小松小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度、小松小学校が掲げた「PBS（ポジティブ行動支援）の視点を取り入れた学校づくり」という運営指針は、学校全体に浸透し、着実な成果を上げている。自己評価結果が概ね「B（目標達成）」で揃っている点は、計画的な学校運営が行われた結果である。

ICT活用による「こころの天気」の運用は、児童の心理的変化を早期に察知し、迅速かつ個別的な支援につなげる有力なツールとして機能しており、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の先進的な事例と言える。また、読書活動の充実は際立っており、多くの児童が本に親しむ環境が整うようになった。

一方で、規範意識の向上において、校内での行動改善は見られるものの、地域（見守り隊）へのあいさつといった自発的な行動への昇華には至っておらず、「守られる」から「主体的に守る」きまりへの移行が待たれる。学力・体力面では、家庭学習時間の少なさや特定の体力項目（シャトルラン）における課題があり、家庭環境への配慮や意欲を高める工夫が必要である。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：安全・安心な教育の推進

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。【経年調査85.4%】

○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。【経年調査89.5%】

○年度末の学校アンケートにおいて、「笑顔をあいさつをしよう」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を78%以上にする。【学校アンケート73.60%】

経年調査の「いじめはいけないこと」や「学校のきまりを守っている」という項目、および学校アンケートの「気持ちよいあいさつ」については、概ね目標を達成することができた。今後は、これまでの指導を継続しつつ、児童が周りの状況を考えて「自発的に行動」できる意識の育成を目指していく。

年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上

○小学校学力経年調査における「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を44%以上にする。

【経年調査34.9%】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を38%以上にする。【経年調査40.9%】

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.1ポイント向上させる。【前年男子95.6%、女子95.8%/今年度男子97.1%、女子94.7%】

○全国体力・運動能力、運動習慣調査における反復横とびの平均の記録を、大阪市平均以上にする。【大阪市平均男子38.63回、女子36.86回、/男子40.08回、女子36.98回】

経年調査における「自分から取り組む」について、最も肯定的に回答する児童の割合は目標には達していない。今後は、児童の前向きな行動や努力を意識的に認める取組を広げ、安心して学習に参加できる雰囲気づくりにつながるような活動となることが望まれる。一方、経年調査や学校アンケートにおける「話し合い」では、最も肯定的な回答をする児童の割合はどちらも目標を上回ることができた。体力面については、全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果を踏まえて、積極的に体を動かす取組が行われることを期待する。

年度目標：学びを支える教育環境の充実

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 【平均96.2%】

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を前年度以上にする。 【前年度79%/今年度94%】

○学校アンケートにおける「本を読むのは楽しいと思いますか（新聞を含む）」で肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。 【79.43%】

学習用端末の活用が定着していることを高く評価する。特に「こころの天気」の入力習慣を今から徹底することは、中学校進学後の環境変化においても、自身の心身の状態を客観的に把握する一助となる。今後も継続した習慣化を期待する。

子どもの活字離れが懸念される中、地域からも読書ボランティアとして深く関わっている。学校と地域が協力し合い、子どもたちがより一層本に親しみ、豊かな感性を育めるような取組の充実を期待する。

3 今後の学校園の運営についての意見

次年度は講堂建替えに伴い通学路の危険増が予想されるため、警察や地域等と連携した実効性のある安全対策と、改正交通ルールに基づく自転車指導の徹底を求める。教育面では、自己管理能力を養う「こころの天気」の入力習慣を継続し、中学校への円滑な接続と個別指導の基盤とされたい。また、地域ボランティアと連携した読書活動の推進や、家庭状況に配慮した学習支援の工夫を通じ、地域社会への感謝を忘れない「自ら考え、行動できる」児童の育成を期待する。学校・家庭・地域の三位一体となった、より強固な協力体制の構築を推進していただきたい。